

平成 22 年度 歴史民俗資料館の管理運営に対する評価票

所管課：教育委員会事務局社会教育課

評価対象期間：平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

評価委員会開催日：平成 23 年 11 月 21 日

1 指定管理者

指定管理者	株式会社日立ビルシステム
指定期間	平成 18 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日（5 年間）
施設概要	発掘による埋蔵文化財や、市民から寄贈された農具、民具などの民俗資料が多くあることから、これらを収蔵し、展示、公開するとともに、長年にわたり伝えられてきた民話の紹介などイベントの開催やリーフレットの発行などにより、特徴ある郷土の歴史、文化をより深く理解し、誇りと親しみを感じてもらうことを目的とする。
指定管理料	9, 300 千円（5 年間計 46,700 千円）

2 管理運営の内容

項 目	22 年度の状況
運営状況	○平等利用のための手法 ・ 接遇教育や案内資料の整備を行い、来館者への平等で均一なサービス提供に努めた。 ○自主事業の展開 ・ 研修室を利用した「ドールハウスづくり」や「手づくりに挑戦」「歴史講座」など各種イベントを年間 20 回開催した。 ・ 拓本教室は自主活動となり「なわて拓本の会」を指導し、市内の石造物の拓本採集を行い、平成 22 年 12 月に「歴史とみどりのまち ふるさと四條畷」に全面的な協力を行い刊行した。資料館でも販売協力実施。 ○情報提供 ・ 市広報紙、資料館のホームページに資料館の催しの案内を掲載した。 ・ 平成 22 年 4 月朝日小学生新聞に「5 世紀、日本で馬が飼われていた」と四條畷の馬を紹介。平成 22 年 10 月産経新聞に特別展を資料館で開催記事掲載。11 月読売新聞に「田原城の若さま想像人形作り」イベント記事掲載。平成 23 年 2 月 9 日の読売テレビニュース ten ミステリー番組で若一光司氏と清水健アナウンサーが四條畷市岡山南遺跡出土の日本最古の下駄を 8 分間にわたり紹介。四條畷の歴史的遺産を近畿全域に P R した。 ○安全確保対策 ・ 緊急連絡先を掲示。 ・ ミーティングを適時実施し、常に状況に合わせた管理運営に努めた。 ・ 迅速なクレーム処理を行うための社内相談窓口を施設のバックアップに適用。
維持管理状況	○ 保守点検 ・ 安全面を優先し自動ドアエンジンリニューアル工事を実施。 ・ 施設の稼働状況に合わせ最適なメンテナンス周期を設定、基準化し適切な整備を実施。 ・ 管理事務所の蛍光灯すべてを L E D に交換、機器の状況点検など職員を動員した効果的な維持保全に努めた。 ○備品の管理 ・ 展示模型及び映像機器を適切に管理。 ○警備業務 ・ カメラ・モニターによる監視。 ○環境保全への取組み ・ 年間を通した空調温度の見直し。 ・ ごみ箱の供用化、種類別の設置などゴミの分別と少量化を推進。

利用状況	前年度と比較し、利用者数は全体で 0.7%の増加となった。日刊紙及びテレビ放映に伴い府外の入館者が多数来館され、指定管理者職員の説明でゆっくりと見学していただきました。例年、市内小学校長に案内及びカリキュラムを出し、6年生の歴史と3年生の昔のくらしの際には市内全7校が来館を受け、暇古文化研究保存会の会員の協力を得て民具の使い方や牛の模型パネルを引く農作業の実演や田植え・草取り・縄編みを実際に行った。 ・ 学校・保育所 1,262 人(9.3%減) ・ 一般団体 1,224 人(21.3%減) ・ 個人 8,554 人(6.7%増) - 合計 11,040 人
収支状況	当年予算で 48 万 9 千円の赤字を見込んでいたが、「日立共同購買サービス」の利用等により、経費縮減を行い、34 万 3 千円の赤字に縮減した。

3 利用者へのアンケート調査

項 目	22 年度の状況
調査の実施内容	対象：施設利用者 調査期間：平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日 調査方法：アンケート用紙と箱を展示室に設置。自由に記入してもらう 回答件数：213 件
調査の結果	スタッフの対応：「満足」が約 70% 「やや満足」を含めると約 83% 展示の解説への対応：「分かった」が約 62% 「だいたい分かった」を含めると約 96%
主な苦情・意見等	・ 勾玉づくりが楽しいのでこれからも続けてください。 ・ 結婚してこの市に嫁いで来ましたが、大変歴史のある地域だなあとびっくりしました ・ 以前から来たいと思って、今日はたまたま見つけることができました。次は家族で来ます。 ・ 四條畷の昔のことが、子どもたちにもわかるような展示や取り組みがなされているのがいいと思います。

4 施設の評価

管理運営の総合評価	○ 5 ● 4 ○ 3 ○ 2 ○ 1
講 評	来館者への「スタッフの対応について」のアンケート調査結果によると、回答数 213 件のうち 83%の方が「満足」・「やや満足」という結果であったが、昨年度と比べると若干減少気味である。その点については、今後の改善努力に期待したい。 施設の運営面では、年間入館者数 1 万人を目標としている中で、昨年度より 78 人増加の 11040 人を達成でき、さらに市内のみならず市外からの来館者確保やリピーター増加のため様々な工夫をしている点や、団体の方へ特別展等の開催案内を行うことを計画している点など、さらなる利用者増加への努力が伺える。 施設の管理面では、企業努力により経費削減に努力している点や、自動ドアのリニューアル工事による来館者への安全確保に努めた点、LED 蛍光灯への変換や節電に努めることにより 10%の削減を達成するなど環境面への配慮も実施している。これらを総合的に判断すると「4」という評価が妥当であると考えられる。

(参考) 評価の基準

- 5 計画内容を上回る（非常に満足できる）結果
- 4 計画内容をやや上回る（満足できる）結果
- 3 計画内容どおりの（妥当と判断する）結果
- 2 計画内容をやや下回る（不満が残る）結果
- 1 計画内容を下回る（非常に不満が残る）結果